

料金別納
ゆうメール

10歳以上のわんちゃんへ 秋の健康診断お知らせ

春に健康診断を受けた方は半年前と変わりがなかったかチェックを、
春に受けていない方はこの機会に受診しませんか？

健康診断コースは11月30日までです

かんたんコース

- 血液検査
血球検査・生化学検査6項目

きほんコース

- 血液検査
血球検査・生化学検査12項目
- 甲状腺ホルモン1項目
シニア犬に多いホルモンによる病気を調べます

獣医師
推奨

しっかりコース

- 血液検査
血球検査・生化学検査12項目
- 甲状腺ホルモン1項目
シニア犬に多いホルモンによる病気を調べます
- レントゲン検査・超音波検査
心臓の動きや内臓の形成異常、腫瘍や結石の有無などを調べます

食事はできるだけ
抜いて来院してください

※血液検査の結果は一週間ほどかかります。

認知症チェック

- 異常に食べる量が増えた
- 後ろ歩きが出来なくなり、狭いところに入ると出れなくなった
- 人やほかの動物の動きに反応しなくなってきた
- その場をぐるぐる回る
- 夜中の決まった時間に単調な声で鳴くようになった
- ちゃんと出来ていたトイレを失敗するようになった
- 立ったまま(座ったまま)ぼーとする時間が長い
- 食事のとき以外は眠っており、夜中や明け方に起きて動き回ることがある
- 聴覚や視覚は衰え、きゆう覚だけは敏感になった
- 習慣行動をしなくなってきた

他の病気の可能性もあるので放置せずまずは身体チェックをしましょう！

※上記の他に気になることがある方や対応にお悩みの方はご相談下さい。

認知症と問題行動について詳しくは裏面へ



認知症と問題行動



認知症とは…

老化により一度発達した脳細胞が減少し、かつては出来ていた行動が出来なくなってしまった状態。認知力や反応性が低下し、学習記憶能力が衰えてしまいます。何の対策もしない場合は、加齢とともに徐々に進行します。

代表的な問題行動

夜鳴き

- ⇒ 睡眠リズムの変調が原因で日中の睡眠時間が多くなり、夜中に目が覚めるサイクルになってしまっている
- ⇒ 心が子犬に戻ることで自分を保護してくれる存在がいないと不安を覚え、孤独に対する恐怖感から鳴いてしまう
- ⇒ 認知症ではなく、明確なリクエストがある場合 (空腹、のどの渇き、トイレ、痛みなどの要求)

攻撃行動

- ⇒ 脳による制御能力が低下してしまい、結果として攻撃行動に対する抑制が効かなくなってしまう
※感情コントロールを司る脳の部位が変性してしまうと、性格自体が変わってしまい攻撃性が激しく現れることがあります。
- ⇒ 驚いた拍子に反射として、関節炎などの持病を抱えて痛みに耐えているような場合は、常に気が立っているなど、明確な引き金があって攻撃性が現れる

認知症なのか問題行動なのかの判断は難しいこともあります。お悩みの方はまずはご相談ください。



定期健康診断で獣医師が見ていること



身体検査とバイタルチェック

- バイタルチェック …………… 体温・心拍・脈拍・呼吸など
- 身体検査 …………… 血圧(股動脈圧)・粘膜の色(貧血の有無)・排泄, 食欲の状態・黄疸, 脱水の有無
ヒフや関節のチェック・耳, 口腔内チェック(ニオイ, 色など)・体格チェック・内臓の触診など

健康診断のコース(基本コースの場合)

- 血液検査 …………… 貧血, 感染の有無など
腎・肝数値, 血糖値などの評価と甲状腺ホルモンの評価

他に消化器系、腎・肝臓の評価や心臓、膀胱結石、腫瘍、子宮や骨の評価など詳しく知りたい場合は「レントゲン」「超音波」の検査で確認できます。

高齢になると「いつもと少し違う」症状や行動がたまに現れることがなにかと増えてきますが、その少し違うことが初期症状であることがあります。「あれ?」と思うことがあればどんな些細なことでも獣医師に伝え、今の身体の状態をしっかりと評価してもらいましょう。